

令和3年

第7回教育委員会会議

報告事項

(令和3年度秋田県公立学校教諭等採用候補者
選考試験の結果について)

秋田県教育委員会

令和3年度秋田県公立学校教諭等採用候補者選考試験の結果について

令和3年4月8日(木)

高 校 教 育 課

令和3年度 教諭等新採用状況

採 用 校 種	前々年度 前年度 採用延期者	R3 合格者	R3 辞退者 採用延期者	R3 採用者	備 考
小 学 校 教 諭	0	141	5	136	辞退2名 大学院進学等採用延期3名
中 学 校 教 諭	0	88	3	85	辞退2名 出産による採用延期1名
高 等 学 校 教 諭	0	19	0	19	
特 別 支 援 学 校 教 諭	0	21	1	20	辞退1名
養 護 教 諭	0	21	0	21	
栄 養 教 諭	0	1	0	1	
教 諭 計	0	291	9	282	
高 等 学 校 実 習 助 手	0	1	0	1	
特 別 支 援 学 校 実 習 助 手	0	1	0	1	
特 別 支 援 学 校 寄 宿 舎 指 導 員	0	2	0	2	
実 習 助 手 寄 宿 舎 指 導 員 計	0	4	0	4	
栄 養 教 諭 特 別 選 考 (任 用 換)	0	6	0	6	
合 計	0	301	9	292	

令和3年

第7回教育委員会会議

報告事項

(令和3年度秋田県公立高等学校入学者選抜一般選抜
学力検査の抽出調査結果について)

秋田県教育委員会

令和3年度秋田県公立高等学校入学者選抜
一般選抜学力検査の抽出調査結果

1 検査教科の平均点（受検者）

教科	令和3年度	令和2年度	前年度比較
国語	61.7	58.6	+3.1
社会	63.4	57.2	+6.2
数学	50.7	51.5	-0.8
理科	66.8	57.0	+9.8
英語	52.2	58.0	-5.8
合計点	294.8	282.3	+12.5
100点換算点	59.0	56.5	+2.5

2 過去3年間の平均点の推移（受検者）

年度 \ 教科	国語	社会	数学	理科	英語	合計点	100点換算点
令和3年度	61.7	63.4	50.7	66.8	52.2	294.8	59.0
令和2年度	58.6	57.2	51.5	57.0	58.0	282.3	56.5
平成31年度	63.4	48.7	53.7	65.0	49.4	280.2	56.0

国 語

1 小問別の完全正答率と得点率

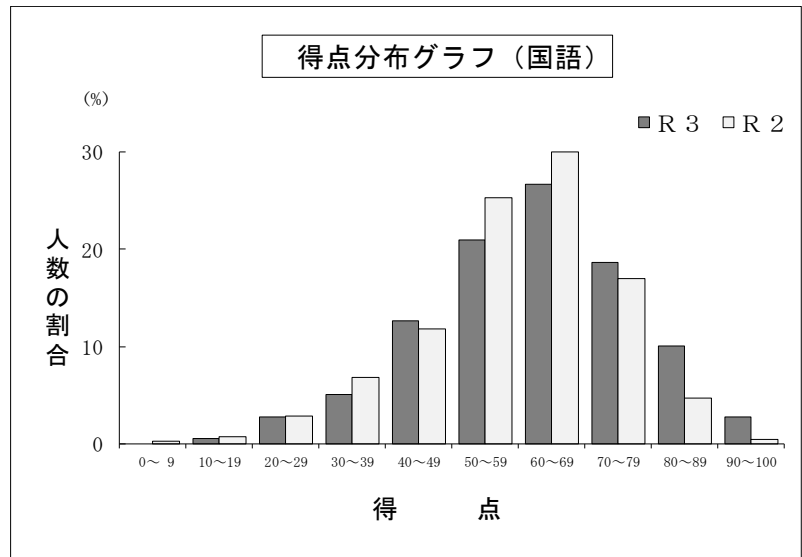
大問	小問	内 容	完全正答率 (%)	得点率 (%)											
				0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	
一	1	話合いの内容を正確に聞き取る	85.1												
	2	話合いの内容を正確に聞き取る	50.4												
	3	話合いの内容を正確に聞き取る	48.4												
	4	話合いの様子から、進行の仕方を考える	94.5												
二	1	本文の内容を捉える	88.2												
	2	本文の内容を捉える	59.4												
	3	本文の内容を捉える	28.5												
	4	(1)	a 本文の内容をまとめる	61.5											
			b 本文の内容をまとめる	59.7											
		(2)	本文の内容を捉える	84.1											
	(3)	本文の内容をまとめる	3.3												
三	1	① 常用漢字を読む	89.7												
		② 配当漢字を書く	30.7												
		③ 常用漢字を読む	97.7												
		④ 配当漢字を書く	86.6												
	2	対義語を書く	81.9												
	3	動詞の活用形を書く	47.9												
	4	助動詞の意味を捉える	89.7												
四	1	(1) 本文の内容を捉える	80.1												
		(2) 叙述から登場人物の心情を捉える	67.3												
	2	本文の内容を捉える	26.2												
	3	叙述から登場人物の心情を捉える	80.1												
	4	(1)	本文の内容を捉える	51.9											
			本文の内容を捉える	70.0											
叙述から登場人物の心情を捉える			14.1												
五	1	① 歴史的仮名遣いの読みを書く	94.0												
		② 歴史的仮名遣いの読みを書く	80.9												
	2	主語を捉える	28.5												
	3	返り点を付ける	54.4												
	4	(1)	漢文の内容を捉える	90.4											
			漢文の内容を捉える	16.6											
			和歌の内容を捉える	11.1											
本文の内容をまとめる			68.0												
六	具体例を取り上げて、自分の考えを分かりやすく書く														

※得点率は、部分点を含めた得点の割合。

2 得点分布

得点分布表（国語）

年度 段階	令和3年度	令和2年度
90～100	2.8	0.5
80～ 89	10.1	4.7
70～ 79	18.6	17.0
60～ 69	26.7	30.0
50～ 59	20.9	25.4
40～ 49	12.6	11.8
30～ 39	5.0	6.9
20～ 29	2.8	2.8
10～ 19	0.5	0.7
0～ 9	0.0	0.2
計	100.0	100.0
平均点	61.7	58.6
標準偏差	15.4	14.3



3 現状の分析

平均点は61.7点と昨年を3.1点上回った。得点分布では、70点以上の層が増加しており、普段の学習の成果が表れた結果と言える。本文の内容を的確に読み取り、自分の言葉で適切に表現できたかどうか得点の差となった。

- ① 「聞くこと」に関する検査では、発言の要点や共通点を整理したり、進行の仕方の特徴を捉えたりしながら、聞き取った内容を記述することができていた。
- ② 説明的な文章では、部分的な内容を読み取ることはできていたが、文章全体の論理展開を捉えて主張を読み取ることや、理解したことを条件に応じて再構築してまとめることに課題が見られる。
- ③ 言語事項では、漢字の読みや対義語の理解については概ねできており、高い正答率となった。一方、漢字の書き取りや文法事項では、設問によって正答率の差が大きく、一層の習熟が必要である。
- ④ 文学的な文章では、本文の内容を理解し、叙述から登場人物の心情を読み取ることは概ねできていたが、読み取った内容を解答の形式にしたがって記述することに課題が見られる。
- ⑤ 古典では、歴史的仮名遣いや返り点など基本的な知識は身に付いていたが、主語を的確に捉えたり、語句の意味を本文全体の内容から類推し、自分の言葉で表現したりすることに課題が見られる。
- ⑥ 作文は、具体的な言葉を取り上げて書くことはできているが、「言葉の大切さ」まで考えを深められていないものが見られる。普段から条件にしたがって書くことを意識したい。

4 授業において取り組むべきこと

【ポイント】

- ・ 目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈する学習の充実を図る。
- ・ 文章の内容や書き手の表現の意図を捉え、読み取ったことを自分の言葉で表現する学習の充実を図る。
- ・ 古典の世界への興味・関心を高め、古典に表れたものの見方や考え方を知ることができる学習を推進する。
- ・ 言語感覚を磨き、語彙を豊かにするための言語活動の充実を図る。

- ① 文章の内容を解釈するために、情報の適否を見極めながら目的に応じて整理したり、登場人物の言動が話の展開などにどのように関わっているかを考えたりする活動を工夫したい。
- ② 文章を読んで、読み取った内容や考えたことについて、根拠を明確にして説明したり、自分の言葉に置き換えて文章にまとめたりする活動の充実を図りたい。
- ③ 分かりやすい現代語訳や語注を活用したり、作品について解説した文章や映像メディアを効果的に用いたりするなどして、古典の世界への興味・関心を喚起したい。
- ④ 語句の意味について調べたことを記録したり、語句を実際に使い、適切であるかどうかを考えたりするなど、話や文章の中で使う活動の充実を図りたい。

社 会

1 小問別の完全正答率と得点率

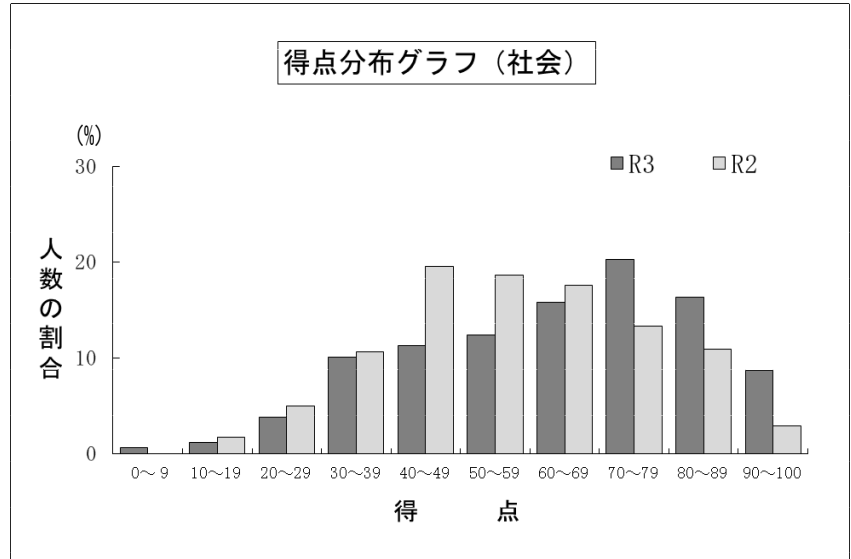
大問	小問	内 容	完全正答率 (%)	得点率 (%)											
				0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	
1	(1)	太平洋の名称を答える	80.3												
	(2)	日本の標準時子午線上にある最も面積の大きい国を答える	63.9												
	(3)	熱帯の面積の割合が最も大きい大陸を選択する	39.9												
	(4)	①	時差を手掛かりに地図から位置を選択する	75.8											
		②	国及び地域の特色を表す資料を基にEUを選択する	59.1											
③		モノカルチャー経済の特徴について資料を基に説明する	38.6												
2	(1)	日本列島を構成する主な島の名称を答える	83.8												
	(2)	日本の山地・山脈の並びが変わる一帯の名称を答える	51.8												
	(3)	人口に関する統計を読み取って適切な県を選択する	30.1												
	(4)	い	温暖な気候の下で行われている農業の名称を選択する	97.0											
		う	きゅうりの出荷における農家の工夫を資料を基に説明する	59.3											
(5)	輸送機械工業の発達の理由を資料を基に説明する	17.9													
3	(1)	古代に続く時代区分の名称を答える	89.6												
	(2)	古墳時代以後に作られた造形物を選択する	69.4												
	(3)	奈良時代に作られた書物を選択する	49.7												
	(4)	藤原氏が勢力を伸ばすために行ったことを説明する	66.7												
	(5)	氏	鎌倉時代の執権を独占した氏の名称を答える	75.3											
		W	鎌倉幕府の仕組みを選択する	76.5											
	(6)	①	鎖国下の窓口の表を完成させる	74.2											
		②	朝鮮通信使がどのようなときに派遣されたかを説明する	41.2											
	(7)	地租改正の内容を説明する	26.5												
	(8)	ノルマントン号事件に関して説明する	69.9												
	(9)	第一次世界大戦の影響を選択する	50.3												
(10)	戦後の外交について適切な新聞の見出しを選択する	64.9													
(11)	え	高度経済成長と公害の発生について説明する	49.2												
	お	高度経済成長と公害の発生について説明する	59.8												
4	(1)	憲法の基本原理を答える	77.8												
	(2)	資料を基に選挙の原則を選択する	83.1												
	(3)	①	選挙をめぐる問題について説明する	70.7											
		②	選挙をめぐる問題について説明する	31.1											
	(4)	公共の福祉により制限される権利を選択する	70.5												
	(5)	情報通信技術の略称を答える	38.6												
	(6)	新しい人権について説明する	71.0												
	(7)	え	グラフから硬貨の流通量が減少していることを読み取る	72.7											
		お	電子マネーの利便性について説明する	83.8											
(8)	規制緩和に該当するものを選択する	72.5													
(9)	①	温室効果ガスの累積排出量について資料から読み取る	62.9												
	②	化石燃料を答える	58.6												
	③	我が国のエネルギー政策の方針を資料から読み取る	45.2												

※得点率は、部分点を含めた得点の割合。

2 得点分布

得点分布表（社会）

年度 段階	令和3年度	令和2年度
90～100	7.8	2.8
80～89	16.4	10.9
70～79	21.7	13.2
60～69	15.7	17.5
50～59	12.4	18.7
40～49	10.1	19.6
30～39	10.1	10.6
20～29	3.5	5.0
10～19	1.8	1.7
0～9	0.5	0.0
計	100.0	100.0
平均点	63.4	57.2
標準偏差	20.2	18.4



3 現状の分析

前年度に比べ、70点以上の層が増加し、平均点は6.2点上昇した。基礎的・基本的な知識や資料を読み取る技能の習得に一定の成果が見られた。それらを活用して、社会的事象や社会に見られる課題などについて考察し、適切に表現する力を一層高めていく必要がある。

- ① 大問1(4)③は、モノカルチャー経済の特徴について、複数の資料を関連付けて説明する問題である（完全正答率38.6%）。資料を基に、地域間の相互依存関係から生じる課題について考察し、適切に表現することに課題がある。
- ② 大問2(5)は、群馬県の輸送用機械の出荷が増加した理由を、資料から読み取れる地価と輸送用機械の生産に必要な敷地の広さを関連付けて説明する問題である（完全正答率17.9%）。複数の資料から読み取った事実を関連付けて社会的事象の背景等を考察し、表現することに課題がある。
- ③ 大問3(7)は、明治維新における地租改正の内容について、資料から読み取れる情報と知識を活用して説明する問題である（完全正答率26.5%）。習得した知識を生かして時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現することに課題がある。
- ④ 大問4(9)③は、我が国の電源構成と温室効果ガス排出量の資料から、我が国のエネルギー政策の方向性を読み取る問題である（完全正答率45.2%）。資料から必要な情報を正しく読み取り、現代社会に見られる課題について考察し、適切に表現することに課題がある。

4 授業において取り組むべきこと

【ポイント】・単元など内容や時間のまとまりを見通した「問い」を設定し、社会的な見方・考え方を働かせることができる学習活動を展開する。
・資料から読み取った情報を基に、社会的事象の特色や意味などについて、比較や関連付けをしながら、多面的・多角的に考察し、表現する学習活動を展開する。

- ① 地理的分野では、地理に関わる事象を位置や分布などに着目して捉え、思考・判断したことを説明したり議論したりする力を養うことが大切である。資料から読み取った事実や習得した知識及び技能を関連付けて、多面的・多角的に考察したり、公正に選択・判断したりする学習の充実を図る必要がある。
- ② 歴史的分野では、各時代を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現する力を養うことが大切である。社会的事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差違などを明確にし、事象同士を因果関係などで関連付けて考察したり、表現したりする学習の充実を図る必要がある。
- ③ 公民的分野では、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察、構想し、表現する力を養うことが大切である。現代社会の見方・考え方を働かせながら、選択・判断する学習活動の一層の充実を図る必要がある。

数 学

1 小問別の完全正答率と得点率

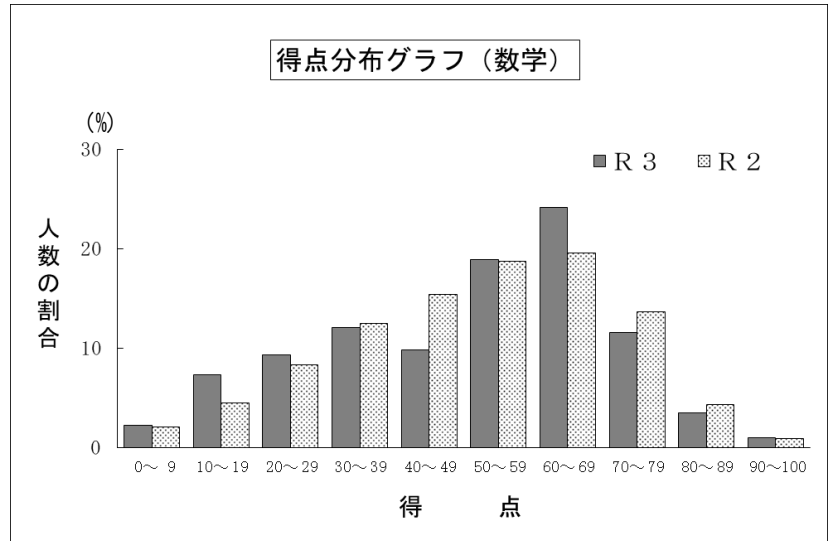
大問	小問	内 容	完全正答率 (%)	得点率 (%)											選択率 (%)
				0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	
1	(1)	正負の数を計算する	82.2												29.7
	(2)	多項式を計算する	69.8												70.8
	(3)	式を展開する	56.1												16.6
	(4)	式の値を求める	63.3												71.3
	(5)	1次方程式を解く	70.8												24.2
	(6)	比例式を解く	70.0												53.7
	(7)	連立方程式を解く	84.5												53.7
	(8)	2次方程式を解く	79.0												73.0
	(9)	代表値を求める	83.3												51.1
	(10)	条件を満たす整数を求める	34.2												55.9
	(11)	外角の性質を利用して角の大きさを求める	87.8												41.3
	(12)	おうぎ形の面積を求める	61.1												74.6
	(13)	円周角の性質を利用して角の大きさを求める	29.5												76.8
	(14)	円錐の体積を求め、体積比を求める	73.9												69.5
	(15)	立体の高さを求める	10.7												37.8
2	(1)	① 反比例の変化の割合を求める	58.2												68.3
		② 関数の比例定数の大小を比較する	28.0												
	(2)	① 条件を満たす数を求める	88.9												
		② 条件を満たす数を文字式で表す	46.6												
	(3)	円周角の性質を利用して作図する	21.7												
	(4)	アイ 条件を満たす式をつくる	50.4												
ウエ 条件を満たす式をつくる		62.7													
3	(1)	三角形の相似を証明する	56.2												31.7
	(2)	① 平行四辺形になるための条件をかく	38.5												
		② ひし形になる場合について選択する	33.5												
	(3)	四角形の面積を求める	15.4												
4	(1)	① 条件を満たす確率を求める	66.2												
		② 条件を満たす確率を求める	58.2												
	(2)	文字を用いて数の性質を説明する	30.5												
5	I	(1) 線分の長さを求める	45.0												68.3
		(2) 直線の式を求める	40.6												
		(3) 条件を満たす座標を求める	4.4												
	II	(1) 直線の式を求める	61.1												
		(2)	① 条件を満たす座標を求める	8.7											
② 条件を満たす座標を求める	0.0														

※得点率は、部分点を含めた得点の割合。

※大問1、5は学校選択の問題。選択率は、その問題を解くように指示された受検者の割合。

2 得点分布 得点分布表（数学）

段階 \ 年度	令和3年度	令和2年度
90～100	1.0	0.9
80～89	3.5	4.3
70～79	11.6	13.7
60～69	24.2	19.6
50～59	18.9	18.7
40～49	9.8	15.4
30～39	12.1	12.5
20～29	9.3	8.3
10～19	7.3	4.5
0～9	2.3	2.1
計	100.0	100.0
平均点	50.7	51.5
標準偏差	20.4	19.2



3 現状の分析

- ① 大問1では、(1)、(5)、(7)、(8)、(9)、(11)、(14)で得点率が70%を超えており、基礎的・基本的な知識及び技能に関わる学習の成果が見られる。(10)条件を満たす自然数を求めること、(13)円周角の性質を利用して角の大きさを求めること、(15)立体の体積から高さを求めることなど、複数の知識及び技能を活用して解決することについて課題が見られる。
- ② 大問2(3)の作図の問題の得点率が23.3%であり、円周角の性質など図形の性質に着目して基本的な作図の方法を見いだすことについて課題が見られる。
- ③ 大問3(1)の三角形の相似を証明する問題の得点率が67.3%であり、改善傾向が見られる。(3)の四角形の面積を求める問題では、平行線と線分の比の性質を利用することについて課題が見られる。
- ④ 大問4(1)①、②の確率を求める問題の得点率がそれぞれ66.4%、58.2%であり、起こり得る場合の数を基にして確率を求めることについて改善傾向が見られる。
- ⑤ 大問5は、関数と図形の融合問題であった。事象の中に潜む関係や法則を数理的に捉え、数学的に考察し表現することについて課題が見られる。

4 授業において取り組むべきこと

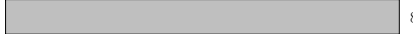


































【ポイント】 次の3点を重視し、数学的活動を通してバランスよく指導する。

- ・数量や図形などについての理解を深めるとともに、数学的な技能の習熟を図る。
- ・数学的な思考力、判断力、表現力等を高める。
- ・数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考える態度を養う。

- ① 大問3や大問5のような事象を論理的、統合的・発展的に考察する題材を用いた学習活動を充実させるために、単元や領域を意図的、計画的に関連付けた単元構想や授業構想が必要である。
- ② 「数と式」の領域では、用語の正しい理解や、計算や方程式を解くことなどの数学的な技能について、一層の習熟を図りたい。また、大問1(6)や大問2(4)のように、日常の事象を考察する問題では、日常の事象を数理的に捉え、表現・処理し、問題を解決できるようにする活動の充実を図りたい。
- ③ 「図形」の領域では、大問3(2)のように、四角形の性質を発展的に考察したり、その結果を統合的に捉えたりすることを通して、図形の性質の理解を深められるようにしたい。
- ④ 「関数」の領域では、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ、大問2(1)のように、グラフの性質と概形を関連付ける問題を設定するなどし、論理的に考察する活動を大切にしたい。また、大問5 I(3)、II(2)のように、条件を満たす場面を的確に捉えたり、図形の基本的な性質や定理などを活用して座標を求めたりする活動の充実を図りたい。
- ⑤ 「データの活用」の領域では、大問1(9)のように、集団においてばらつきのある事象を、代表値を用いて考察したり、大問4(2)のように、偶然に左右される事象を、確率を用いて考察したりする活動の充実を図りたい。

理 科

1 小問別の完全正答率と得点率

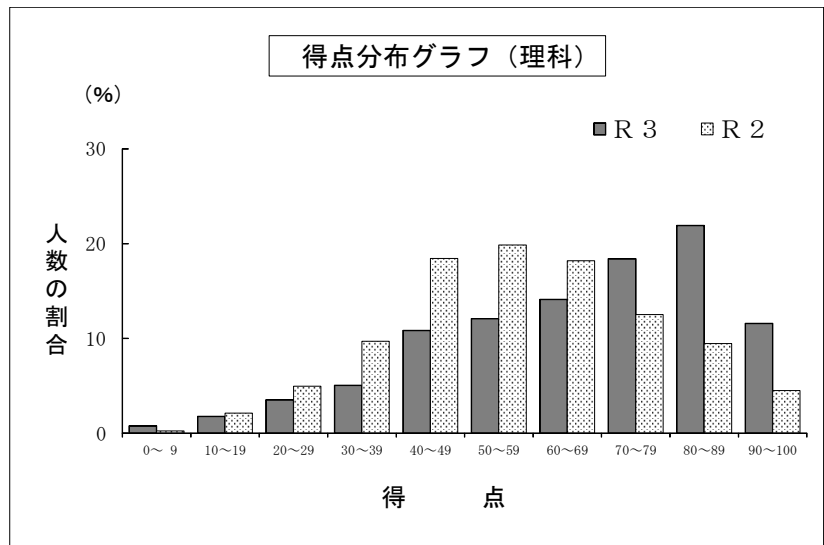
大問	小問	内 容	完全正答率 (%)	得点率 (%)											
				0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	
1	(1)	① 花のつくりを外側から順に並べる	83.9												
		② 離弁花類の名称を答える	86.6												
		③ 種子植物を分類するために着目する点を選択する	86.9												
	(2)	① 胞子のうの名称を答える	64.7												
		② 維管束の位置を調べる方法を説明する	54.9												
		③ コケ植物における根のように見える部分の名称と働きを選択する	68.0												
2	(1)	アルカリ性を示す水溶液を選択する	68.5												
	(2)	陽極と赤色リトマス紙を選択する	50.5												
	(3)	こまごめピペットの安全球の役割を説明する	85.1												
	(4)	水溶液中に最も多く存在するイオンをイオン式で表す	23.2												
	(5)	X	中和反応において数が減少するイオンの名称を答える	50.6											
		Y	中和反応において酸の性質の変化を答える	79.8											
Z		中性にならなくても中和反応は起こることを説明する	72.5												
3	(1)	① 鉱物の生成について説明する	80.6												
		② 無色鉱物を選択する	81.1												
		③ 火山灰の色の違いの原因を説明する	49.9												
	(2)	① 凝灰岩の名称を答える	57.9												
		② 砂岩の粒が丸みを帯びている理由を説明する	72.0												
		③ 地層が傾いている方位を求める	35.5												
4	(1)	磁力の名称を答える	87.2												
	(2)	検流計の特徴を答える	53.7												
	(3)	コイルの回りにできる磁界の向きを選択する	50.9												
	(4)	① 電磁誘導の名称を答える	65.2												
		② 誘導電流の向きが逆になる結果の組み合わせを選択する	76.6												
	(5)	電力量を求める	51.8												
5	(1)	① 感覚器官を選択する	99.7												
		② 中枢神経の名称を答える	74.6												
		③ 刺激に対する反応の時間を求める	54.2												
	(2)	① 年周運動の名称を答える	52.4												
		② 夜の長さに関する仮説を確かめることのできる実験の結果を説明する	42.1												
6	(1)	① マグネシウムの酸化を化学反応式で表す	70.8												
		② 酸化マグネシウムの質量を求める	69.3												
	(2)	光の速さを音と比較して説明する	88.2												
	(3)	① 振幅を整数比で求める	91.4												
		② 振動数を比較して説明する	63.5												

※得点率は、部分点を含めた得点の割合。

2 得点分布

得点分布表(理科)

年度 段階	令和3年度	令和2年度
90～100	11.6	4.5
80～89	21.9	9.5
70～79	18.4	12.5
60～69	14.1	18.2
50～59	12.1	19.9
40～49	10.8	18.4
30～39	5.0	9.7
20～29	3.5	5.0
10～19	1.8	2.1
0～9	0.8	0.2
計	100.0	100.0
平均点	66.8	57.0
標準偏差	20.8	18.8



3 現状の分析

- ① 今年度は、昨年度と比べ、70点以上の割合が25.4ポイント増加している。
- ② 観点別の完全正答率は、「科学的な思考・表現」が60.6%、「観察・実験の技能」が64.6%、「知識・理解」が73.8%である。特に「知識・理解」のうち、用語を記述する問題及び科学的な概念を説明する問題の完全正答率がそれぞれ71.2%、76.5%であることから、普段の学習において基礎的・基本的な知識の習得が図られている結果と言える。
- ③ 領域別の完全正答率は、生物的領域が74.8%、物理的領域が69.8%、化学的領域が63.4%、地学的領域が58.9%である。どの分野も完全正答率は比較的高かった。
- ④ 大問2(4)の中和反応を調べる実験において、水溶液中に最も多く存在するイオンをイオン式で表す問題では、完全正答率が23.2%である。実験の結果を、水溶液中のイオンの種類や数と関連付けて分析して解釈する力が十分とは言えない。
- ⑤ 大問3(2)③の地層が傾いている方位を求める問題では、完全正答率が35.5%である。地層の広がりについて、地形図や露頭のスケッチ、柱状図を基にして、地層のつながりを空間的に把握する力が十分とは言えない。

4 授業において取り組むべきこと

【ポイント】科学的に探究する力を育成するために

- ・観察、実験の結果を分析して解釈する学習活動の充実を図る。
- ・理科の見方・考え方を働かせ、より妥当な考えをつくりだし、表現する学習活動を工夫する。

- ① 大問2(5)、大問3(1)③、大問4(4)②、大問6(3)②のように、観察、実験で得られた結果を分析して解釈し、科学的に適切な判断を行うためには、視点を明確にし、科学的な知識と関連付けて考察する場面を設定する必要がある。その際、個で考察する時間を十分に確保した上で、既習事項を想起させる発問をしたり、生徒同士の考えや意見を交換する活動を取り入れたりすることが大切である。
- ② 大問1(1)③、大問3(2)③、大問5(2)②のように、観察、実験の方法や考察について、科学的な概念を使用して考えて説明できるようにするためには、探究の過程において、理科の見方・考え方を働かせる場面を意図的、計画的に設定する必要がある。その際、生徒相互の関わりを通して自分の考えをより妥当なものにしていけるように、授業の流れや教師の発問について、十分に検討することが大切である。

英 語

1 小問別の完全正答率と得点率

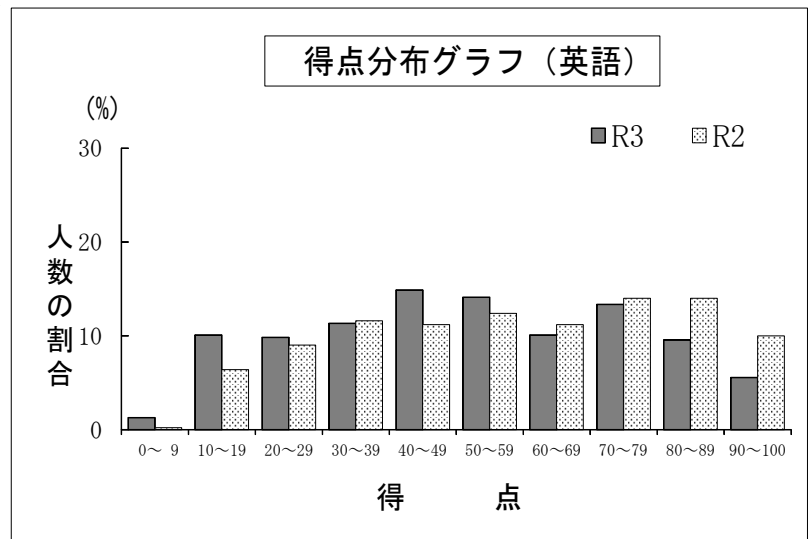
大問	小問	内 容	完全正答率 (%)	得点率 (%)		
				0	100	
1	(1)	① 短い会話を聞いて要点を聞き取る (選択)	98.5	98.5		
		② 短い会話を聞いて要点を聞き取る (選択)	78.8	78.8		
	(2)	① 会話を聞いて適切に応答する (選択)	85.4	85.4		
		② 会話を聞いて適切に応答する (選択)	52.6	52.6		
		③ 会話を聞いて適切に応答する (選択)	67.8	67.8		
	(3)	① まとまりのある会話を聞いて要点を適切に聞き取る (選択)	76.1	76.1		
		② まとまりのある会話を聞いて要点を適切に聞き取る (選択)	71.5	71.5		
		③ まとまりのある会話を聞いて要点を適切に聞き取る (選択)	96.7	96.7		
	(4)	記号	まとまりのある英語を聞いて概要を適切に聞き取る	66.5	66.9	
			まとまりのある英語を聞いて概要を適切に聞き取る	70.8	71.2	
		[答え]	[問い] に対する、自分の意見等を英文2文で書く (記述)	29.2	47.1	
	2	(1)	① 文脈に応じて語形を変化させる (例) 過去分詞形 known	67.5	67.5	
			② 文脈に応じて語形を変化させる (例) 過去分詞形 tried	70.8	70.8	
③ 文脈に応じて語形を変化させる (例) 進行形 using			54.2	54.2		
④ 文脈に応じて語形を変化させる (例) 比較級 cheaper			48.6	48.6		
(2)		① 条件に合う単語を書く November	59.7	59.7		
		② 条件に合う単語を書く (例) festival	38.3	38.3		
		③ 条件に合う単語を書く (例) abroad	28.7	28.7		
		④ 条件に合う単語を書く (例) ride	36.3	36.6		
(3)		① 必要な2語を加え、正しい語順で英文を完成させる	65.5	67.3		
		② 必要な2語を加え、正しい語順で英文を完成させる	10.6	11.8		
	③ 必要な2語を加え、正しい語順で英文を完成させる	50.6	53.4			
3	(1)	① 内容を正確に読み取り、英語の質問に英語で答える	32.2	48.9		
		② 内容を正確に読み取り、英語の質問に英語で答える	21.9	42.4		
	(2)	自分の考え等を英文にまとめる (15~25語)	8.3	32.7		
4	(1)	① 書かれた内容を正確に読み取る (選択)	58.9	58.9		
		② 書かれた内容を正確に読み取る (選択)	72.5	72.5		
	(2)	内容を読み取り、適切な単語を書く	39.0	39.7		
	(3)	① 内容を読み取り、適切な単語を書く (例) took	14.4	14.7		
② 内容を読み取り、適切な単語を書く (例) first		14.6	14.6			
5	(1)	2 段落の概要を理解することができるか。	72.5	72.5		
		4 段落の概要を理解することができるか。	65.0	65.0		
	(2)	文脈にあった英語を書くことができるか。	55.2	55.2		
	(3)	本文の内容から語句の意味を捉えることができるか。	57.9	57.9		
	(4)	文章を読み取り、内容を日本語で説明することができるか。	7.8	13.1		
		文章を読み取り、本文の内容を捉えることができるか。	48.9	49.0		
	(5)	文章を読み取り、本文の内容を捉えることができるか。	40.8	40.8		
		文章を読み取り、本文の内容を捉えることができるか。	40.8	40.8		
(6)	① 本文の要約を捉え、適切な英語を選ぶことができるか。	61.5	61.5			
	② 本文の要約を捉え、適切な英語を選ぶことができるか。	31.5	31.5			

※得点率は、部分点を含めた得点の割合。

2 得点分布

得点分布表（英語）

年度 段階	令和3年度	令和2年度
90～100	5.4	10.0
80～89	9.6	14.0
70～79	13.4	14.0
60～69	10.1	11.2
50～59	14.1	12.4
40～49	14.9	11.2
30～39	11.3	11.6
20～29	9.8	9.0
10～19	10.1	6.4
0～9	1.3	0.2
計	100.0	100.0
平均点	52.2	58.0
標準偏差	23.7	23.9



3 現状の分析

平均点は52.2点で前年度を5.8点下回った。得点分布グラフでは、10点～39点の得点層が前年度よりも増加した。基本的な語彙や文法の定着に課題が見られた。一方、リスニング問題の得点率はどの学力層でも高く、音声を中心とした指導の成果であると考えられる。

- ① 大問1(2)は、放送が1回のみ聞き取り問題であり、完全正答率は平均68.6%であった。一方、(4)の質問に対する応答を求める問題は、完全正答率、得点率がそれぞれ29.2%、47.1%であり、質問を正しく聞き取り、基本的な語彙を用いて自分の考えを表現する力に課題が見られた。
- ② 大問2(2)は、英語で書かれた説明を手掛かりに、英文の空所に適語を補充する問題で、得点率は平均40.8%であった。特に動詞や副詞を正確に書く力に課題が見られた。状況等に応じて多様な語句を活用し、考えや情報を伝え合う言語活動を更に充実させることが求められる。
- ③ 大問3は、授業におけるALTとのやり取りを想定した問題であり、(2)の得点率は32.7%であった。コミュニケーションの目的や場面、相手についての情報などを把握し、伝える内容を思考・判断して、適切な言語材料を用いて表現することに課題が見られた。
- ④ 大問4(3)は、直前の会話で読み取った内容を基に、続く会話の文脈に応じて適切な語を書く問題で、得点率は平均14.7%であった。まとまりのある英文や会話から得られた情報について、伝えるべき内容を思考・判断し、適切な語彙を用いて表現する力に課題が見られた。
- ⑤ 大問5(1)は、各段落の概要を読み取る問題であり、完全正答率は平均68.8%であった。一方、(4)、(6)の平均得点率はそれぞれ13.1%、46.5%であり、詳細や要点を目的に応じて捉え、理解したことを適切に表現する力に課題が見られた。

4 授業において取り組むべきこと

【ポイント】・幅広い資料や題材を活用して、生徒の興味・関心を高めるとともに、複数の領域を統合した言語活動を通じて、コミュニケーションを図る資質・能力を養う。
・目的や場面、状況等を明確にした言語活動の中で基本的な語彙と文法事項を繰り返し指導するとともに、効果的な振り返り等を通じて定着を図る。

- ① 日常的な話題や社会的な話題について聞いたり読んだりしたことを基に、考えや気持ちなどを他者と伝え合うなど、複数の領域を統合させた言語活動を行うことが一層求められる。その際、情報を整理しながら考えを形成し、適切な表現を用いて伝え合う機会を充実させることが大切である。
- ② 具体的な場面や状況等を想定した言語活動の中で、基本的な語彙や文法事項などの言語材料を繰り返し活用させることで、それらの定着を図る必要がある。活動後に生徒に誤りや曖昧さに気づかせる振り返りの場面を設けるなど、正確さや適切さを高めていくことが重要である。

令和3年

第7回教育委員会会議

報告事項

(令和4年度秋田県立中学校入学者選抜適性検査
問題等作成方針について)

秋田県教育委員会

令和4年度秋田県立中学校入学者選抜適性検査問題等作成方針

秋田県教育委員会

1 基本方針について

- (1) 適性検査問題については、小学校学習指導要領（平成29年文部科学省告示第63号）に基づくものとする。
- (2) 適性検査問題等は、知識及び技能、思考力・判断力・表現力等を把握できるように出題する。
- (3) 適性検査問題等の内容は、適性検査と作文とする。
適性検査は、放送による検査を含む、国語、社会、算数、理科、外国語（英語）の教科横断的な内容とし、検査時間は50分とする。
作文は、自分の考えや意見等を書くものとし、検査時間は45分とする。

2 適性検査問題等の配慮事項について

適性検査と作文において、次の事項についての力がみられるように配慮する。

(1) 適性検査

- ア 聞いたり、読んだりしたことから、必要な情報を取り出し、その意味を理解する力
- イ 情報を自分の経験や教科で学んだことに関連付けて捉え、思考・判断する力
- ウ 目的に応じて、自分の考えや意見を表現する力

(2) 作文

自分の経験や見聞を基に、目的や意図に応じて、文章の構成や表現を工夫して書く力

※ 令和4年度秋田県立中学校入学者選抜における変更点
適性検査（放送による検査を含む）については、外国語（英語）を加えた内容とする。

令和3年

第7回教育委員会会議

報告事項

(令和4年度秋田県公立高等学校入学者選抜学力検査
問題作成方針について)

秋田県教育委員会

令和4年度秋田県公立高等学校入学者選抜学力検査問題作成方針

秋田県教育委員会

1 基本方針

中学校学習指導要領（平成29年文部科学省告示第64号）に基づくものとする。

2 実施教科、検査時間及び出題内容

(1) 前期選抜

ア 学力検査の実施教科は、国語、数学、外国語（英語）の3教科とし、各教科の配点は、それぞれ100点とする。

イ 各教科の検査時間は、各45分とする。

ウ 問題は、各教科の目標・内容に即し、基礎的・基本的な事項を中心としながら、それらを活用して課題を解決することについても、学習の成果が多面的に把握できるように出題する。

(2) 一般選抜

ア 学力検査の実施教科は、全日制の課程においては、国語、社会、数学、理科、外国語（英語）の5教科、定時制の課程においては、国語、数学、外国語（英語）の3教科とし、各教科の配点は、それぞれ100点とする。

イ 各教科の検査時間は、国語、数学、外国語（英語）は各60分、社会、理科は各50分とする。なお、国語の「聞くこと」に関する検査及び英語のリスニングテストは、当該教科の検査開始と同時に10分間程度行う。また、数学では学校による問題選択制を一部取り入れる。

ウ 問題は、各教科の目標・内容に即し、基礎的・基本的な事項及びそれらを活用して課題を解決することについて、学習の成果が多面的にしかもきめ細かに把握できるように出題する。

3 各教科の配慮事項

各教科とも、次の各領域及び事項についての学力がみられるように配慮する。

(1) 国語

ア 話の構成や展開、話し手の意図などを考えながら聞く力（一般選抜のみ）

イ 目的や意図に応じ、自分の気持ちや考えを効果的に伝えるために、ある程度まとまった文章を書く力（一般選抜のみ）

ウ 目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価しながら、内容や要旨を的確に読み取る力

エ 各領域の学習に関連する、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（漢字については、常用漢字を読む力と学年別漢字配当表に示されている漢字を書く力）

(2) 社会

ア 日本や世界の諸地域などの地理的事象について、自然及び社会的条件と関連させながら理解し、考察する力

イ 我が国の歴史的事象について、時代の動きや世界の歴史などと関連させながら理解し、考察する力

ウ 現代社会、経済と国民の生活、我が国の政治、国際社会の諸課題などに関する事項について理解し、考察する力

エ 地図や地球儀、統計、年表などの諸資料を活用して、社会的事象を様々な角度から判断し、表現する力

(3) 数学

ア 数や式を的確に処理する力及び基本的な方程式や不等式を用いる力

イ 基本的な図形の性質についての理解及び図形について見通しをもって論理的に考察し表現する力

ウ 具体的な事象について関数関係を見だし表現し考察する力

エ 不確定な事象について確率を用いて考察する力及び資料や母集団の傾向を読み取る力

オ 事象を数学的な見方や考え方に基づいて数理的に考察し表現する力

(4) 理科

ア 自然の事物・現象を科学的に探究する過程を通して、その仕組みや働きを多面的、総合的に考察する力

イ 観察、実験で得られた事象や結果を分析して解釈し、表現する力

ウ 観察、実験の基本操作及び観察、実験の結果を的確に記録、整理するなどの技能に関する力

エ 自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、活用する力

(5) 外国語（英語）

ア 初歩的な英語を聞いて、その内容を聞き取り、適切に応答する力（一般選抜のみ）

イ 場面に応じて適切な英語を用い、自分の考えなどを表現する力

ウ まとまりのある英語の文章を読んで、その概要や要点、書き手の意向などを理解する力

令和3年

第7回教育委員会会議

報告事項

(令和3年3月高等学校卒業者の就職決定状況について)

秋田県教育委員会

令和3年3月高等学校卒業者の就職決定状況について(公務員を除く)

令和3年3月31日現在

高 校 教 育 課

(公立全日制)

1 卒業予定者数 **6,519** 人

2 就職内定状況(公務員を除く)

地 区		卒業者数	就職 希望者数	就職 決定者数	就職 決定率	県内就職			県外就職			未決定者
						希望者数	決定者数	決定率	希望者数	決定者数	決定率	
県 北	今年度	1,590	427	426	99.8%	299	298	99.7%	128	128	100.0%	1
	昨年度	1,669	505	504	99.8%	305	304	99.7%	200	200	100.0%	1
中 央	今年度	2,931	681	680	99.9%	530	529	99.8%	151	151	100.0%	1
	昨年度	2,997	782	780	99.7%	574	573	99.8%	208	207	99.5%	2
県 南	今年度	1,998	498	497	99.8%	345	344	99.7%	153	153	100.0%	1
	昨年度	2,222	622	621	99.8%	420	419	99.8%	202	202	100.0%	1
県全体	今年度	6,519	1,606	1,603	99.8%	1,174	1,171	99.7%	432	432	100.0%	3
	前年度	6,888	1,909	1,905	99.8%	1,299	1,296	99.8%	610	609	99.8%	4
	増減	-369	-303	-302	0.0	-125	-125	-0.1	-178	-177	+0.2	-1

- ① 公立全日制就職決定率 **99.8%** (前年同期比 **0.0**ポイント)
 県内就職決定率 **99.7%** (前年同期比 **-0.1**ポイント)
 県外就職決定率 **100.0%** (前年同期比 **+0.2**ポイント)

- ② 地区別決定率等
 県内就職決定率は、県北地区は前年同期比 0.0ポイント 中央地区は 0.0ポイント 県南地区 -0.1ポイント
 県外就職決定率は、県北地区は前年同期比 0.0ポイント 中央地区は +0.5ポイント 県南地区 0.0ポイント

- ③ 就職希望者数は、1,606人であり、前年同期比で -303人
 就職決定者数は、1,603人であり、前年同期比で -302人

(公立全日制+公立定時制+私立高校)

		卒業者数	就職 希望者数	就職 決定者数	就職 決定率	県内就職			県外就職			未決定者
						希望者数	決定者数	決定率	希望者数	決定者数	決定率	
	全日制	6,519	1,606	1,603	99.8%	1,174	1,171	99.7%	432	432	100.0%	3
	定時制	144	67	63	94.0%	58	54	93.1%	9	9	100.0%	4
	私立	734	114	114	100.0%	105	105	100.0%	9	9	100.0%	0
全県総計	今年度	7,397	1,787	1,780	99.6%	1,337	1,330	99.5%	450	450	100.0%	7
	前年度	7,815	2,118	2,110	99.6%	1,468	1,461	99.5%	650	649	99.8%	8
	増減	-418	-331	-330	0.0	-131	-131	0.0	-200	-199	+0.2	-1

令和3年3月高等学校卒業者の就職決定状況について(公務員を含む)

令和3年3月31日現在

高校教育課

①公立高校全日制

	希望者	決定者	決定率	未決定者	未決定者前年度比
県内民間	1,174	1,171	99.7%	3	0
県外民間	432	432	100.0%	0	-1
小計	1,606	1,603	99.8%	3	-1
県内公務員	163	155	95.1%	8	+1
県外公務員	113	112	99.1%	1	-2
小計	276	267	96.7%	9	-1
合計	1,882	1,870	99.4%	12	-2

(前年同期比 0.0ポイント)

②公立高校定時制

	希望者	決定者	決定率	未決定者	未決定者前年度比
県内民間	58	54	93.1%	4	+3
県外民間	9	9	100.0%	0	0
小計	67	63	94.0%	4	+3
県内公務員	2	2	100.0%	0	0
県外公務員	0	0	-	0	0
小計	2	2	100.0%	0	0
合計	69	65	94.2%	4	+3

(前年同期比 -4.3ポイント)

③私立高校

	希望者	決定者	決定率	未決定者	未決定者前年度比
県内民間	105	105	100.0%	0	-3
県外民間	9	9	100.0%	0	0
小計	114	114	100.0%	0	-3
県内公務員	15	15	100.0%	0	0
県外公務員	0	0	-	0	0
小計	15	15	100.0%	0	0
合計	129	129	100.0%	0	-3

(前年同期比 +1.9ポイント)

①+②+③県全体

	希望者	決定者	決定率	未決定者	未決定者前年度比
県内民間	1,337	1,330	99.5%	7	0
県外民間	450	450	100.0%	0	-1
小計	1,787	1,780	99.6%	7	-1
県内公務員	180	172	95.6%	8	+1
県外公務員	113	112	99.1%	1	-2
小計	293	284	96.9%	9	-1
合計	2,080	2,064	99.2%	16	-2

(前年同期比 -0.1ポイント)

県内就職希望割合 **72.9%** 1,517 / 2,080 人 (前年同期比 +5.2ポイント)

〔	内訳 男	70.5%	911 / 1,292 人
	女	76.9%	606 / 788 人

県内就職の割合 **72.8%** 1,502 / 2,064 人 (前年同期比 +5.1ポイント)

〔	内訳 男	70.4%	904 / 1,284 人
	女	76.7%	598 / 780 人

令和3年

第7回教育委員会会議

報告事項

(令和3年3月特別支援学校高等部卒業者の就職決定状況について)

秋田県教育委員会

令和3年3月特別支援学校高等部卒業者の就職決定状況について

令和3年3月31日現在
特別支援教育課

1 特別支援学校高等部卒業者の進路希望状況

単位:人

卒業予定者数	進学等	就職	福祉施設等利用	無職等	備考
199	6	79	109	5	・福祉施設等利用の内訳: 生活介護46、療養介護3、機能訓練1、就労移行支援2、 就労継続支援A型1、就労継続支援B型54、地域活動支援センター1、 その他1 ・無職等の内訳:家事手伝い1、在宅2、病気療養中1、相談中1
割合	3.0%	39.7%	54.8%	2.5%	

2 就職希望者の内定状況

単位:人

学校・障害種別	学校数 <small>(含分校・分教室・附属)</small>	卒業予定者数	就職希望者数	内定者数 <small>(含内諾)</small>	備考
視覚支援学校(視覚障害)	1	7	2	1	
聴覚支援学校(聴覚障害)	1	4	3	3	
秋田きらり支援学校(肢体不自由)	1	7	0	0	
ゆり支援学校道川分教室(病弱)	1	2	0	0	
知的障害校(9校3分校) <small>※附属特別支援学校を含む</small>	12	179	74	70	
計	16	199	79	74	就職内定率93.7%
<small>卒業予定者数に占める割合</small>			39.7%	37.2%	

3 就職内定先の業種等

業 種 等	人数	割合
卸売業・小売業(飲食品小売、衣料小売、自動車整備等)	25	33.8%
製造業(縫製、電子部品等)	18	24.3%
医療・福祉(介護施設介護補助、保育補助、清掃、調理補助等)	11	14.9%
宿泊業・飲食サービス業(宿泊施設、飲食店、調理補助等)	7	9.5%
生活関連サービス業(クリーニング、ビルメンテナンス、リサイクル等)	7	9.5%
農業(農場・農園、農事組合法人)	3	4.1%
公務	2	2.7%
運輸・郵便業	1	1.4%
計	74	

4 特別支援学校高等部卒業生進路先状況の年度別推移

単位:人

年度	卒業人数	進学	訓練機関	就職	施設等	無業・在宅	就職者の割合	知的障害校	
								就職者数	就職者割合
H22	179	9	2	41	107	20	22.9%	36	24.5%
H23	204	3	3	51	130	17	25.0%	45	25.7%
H24	198	5	0	58	117	18	29.3%	54	32.5%
H25	197	3	0	75	105	14	38.1%	68	38.9%
H26	199	4	0	83	100	12	41.7%	74	44.0%
H27	198	9	0	70	108	11	35.4%	66	39.3%
H28	223	1	0	70	146	6	31.4%	67	33.2%
H29	201	2	0	76	120	3	37.8%	65	37.8%
H30	196	0	0	74	118	4	37.8%	68	39.3%
R1	217	1	0	77	136	3	35.5%	74	37.4%
R2	199	4	2	74	109	10	37.2%	70	39.1%